

Hello, from
Around the World

ALT通信

白河で活躍するALT（外国語指導助手）を紹介！



ブルック・ミーガン先生
（オーストラリア・クィーンズランド州）

☎本庁舎学校教育課 内2365

白河の緑と山の美しさに感動！

みなさんはじめまして！私は今年の7月に、オーストラリアのロックハンプトンから来ました。冬でも暖かいこの街は、ビーフキャピタルといわれるほど多くの牛が放牧され、オーギービーフのステーキが名物料理です。

私は体を動かすことが好きです。オーストラリアでは、毎週フットボールをプレイして、月1回はボートで海釣りを楽しみ、釣ったサバは焼いて食べました。また、動物も好きなので、犬・猫・ハビをペットで飼っていました。

白河に初めて来たとき、自然が多くて、きれいな街だと思いました。これから市内の名所を巡ることが楽しみです。好きな食べ物は

ラーメンなので、たくさん白河ラーメンを食べたいと思います。おすすめのお店を教えてください。皆さんどうぞよろしくお願いします。（次回に続く）



▲市長への着任挨拶

英語で一言！
Life is like a box of chocolate.
「人生はチョコレート箱のようだ」
（開けてみるまで分からない）

シリーズで学ぶ

白河歴史人物伝

Vol.17

白河の歴史を編んだ儒学者

ひろ瀬 蒙齋
(1768～1829)

明和5年（1768）、白河藩主松平家臣・広瀬庄八の子として生まれました。名は政典（典）、通称台八といい、蒙齋は号です。

22歳のとき、藩主定信の命により、江戸湯島の昌平坂学問所に入塾し、朱子学者の柴野栗山らに学びました。その後西国へ遊学し、各地の名所旧跡を訪ねています。寛政10年（1798）より白河藩の藩校立教館の教授を務め、領内のさまざまな人々を門弟としながら、藩主定信へ講義をしたり、ときには意見することもありました。

《多彩な業績》

蒙齋は、定信のもと多くの歴史事業に参画し、業績をのこしています。

まずは、定信の命により柴野栗山や谷文晁ら多くの学者・絵師が関わった古文化財図録『集古十種』については、蒙齋が編さんに関わり、序文を記しています。

また、白河の歴史に関して『白河風土記』『白河古事

考』などの歴史書を編さんしました。これらは今でも白河の歴史研究には欠かせない本です。このほか、搦目の白川城跡の崖面に刻まれた磨崖碑「感忠銘碑」や、南湖築造の事情を記した「南湖開鑿碑」、鹿嶋神社三重塔の由来を記した「浮屠碑」など、白河の重要な歴史資料となっている石碑の多くは、蒙齋の作文によるものです。

晩年には、藩主松平家の桑名転封に伴い、蒙齋も桑名へ移りますが、その6年後、62歳で亡くなりました。



広瀬蒙齋肖像（白河市歴史民俗資料館蔵）
蒙齋が没した2年後に描かれたもので、絵は藩の絵師巨野泉祐、賛は蒙齋門下の儒学者片山恒齋によるものです。誠実かつ温和であった蒙齋の人物が表れています。



感忠銘碑
搦目の大庄屋・内山重濃が、南朝の後醍醐天皇の忠臣として知られる結城宗広・親光父子を顕彰する磨崖碑の建立を発起し、蒙齋が作文し、定信が題字を書きました。

問 文化財課 ☎ 272310